

ドクター・ハザマの



# バイタルサイン塾 32

## 「薬剤師の職能拡大」にある誤解

ファルメディコ株式会社  
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座  
医師・医学博士 狭間 研至

### 「薬剤師の職能拡大に、他職種が理解・協力」 に感じる違和感とは

講演会や講義などで、薬剤師が患者さんの血圧を測定するという話をした際、「医師の許可をいただいからでないとダメなのでは？」というご質問をしばしばいただきます。もちろん、医師へ話を通しておくことは必要だと思いますが、それは、医師の許可をもらうのではなく、薬剤師が血圧を測定する意義を説明し、納得してもらうためです。

ただ、今までの医師と薬剤師との関係は、どうしても上下関係ができがちです。それは、特に医薬分業の場合、医師のもとを訪れた患者さんに対して、薬剤師が調剤させていただくという構図があるからではないかと思えます。言葉を換えれば、患者さんは医師に所属するものであって、その患者さんに対して、調剤なり、物品販売なりをさせていただくというイメージが強く残っているということです。もちろん、実際にそういう側面は色濃くあるので、「医師の理解がないので、患者さんの血圧を測定させていただくことが難しいです…」ということになってしまいます。

逆に、薬剤師がバイタルサインをとったり、フィジカルアセスメントをしたりしている時には、「医師の理解がある」というように言われることがあります。確かに、そういう側面もあるかも知れません。しかし、その薬剤師の周囲にいる医師や看護師などが「薬剤師の職能拡大に理解があり、協力してくれている」という構図（図）にも違和感を覚えます。

なぜなら、薬剤師による種々の活動の目的は、医師と同じく「国民の健康な生活を確保する」ことのはずです。それを、医療人がその職種を超えて達成していく際に、薬剤師が6年制薬学教育への移行を根拠の一つとしながら、今までと違った活動を行っていくという流れの中で、バイタルサインやフィジカルアセスメ

■図

### 薬剤師の職能拡大のために ご協力をお願いします！



© Kenji Hazama, M.D., Ph.D.

ント、そして共同薬物治療管理（CDTM）という概念が語られ、理解されるべきではないでしょうか。

### CDTM 等は薬剤師の職能拡大ではなく 「新しい治療戦略」の構築だ

多職種連携、情報共有を通じてチーム医療を推進することが是とされるならば、薬剤師が従来とは異なる活動をしていくということは、他の医療職種、とくに医師との関係が大きく変わっていくことを意味しています。もちろん、医師は患者を診察し、診断を下して治療方針を決定し、遂行する。その一つとして薬物治療が存在し、その方針は処方せんに記載され、薬剤師に委ねられるというのが基本的な流れです。

従来は、その処方せんに監査し、調剤し、服薬指導とともにお渡しして、一連の行為を薬歴に記載するというところで終わっていましたが、これだと、薬物治療の成果を薬学的にアセスメントする機会が生まれません。

薬剤師は、自らが調剤した薬剤の効果や副作用を、薬学的専門性に基づいて適切な時期に評価し、その結果を医師にフィードバックして議論をすることで、薬物治療の最適化に向けて医療チームが加速するという、まさに「新しい治療戦略」なのです。